

# ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 10 号 〇●〇

平成 24 年 10 月

発行：教育企画課・教育指導課

練馬区内の小・中学校では、さまざまな小中一貫教育の取組が行われています。「ねりま小中一貫教育レポート」では、小中一貫教育の取組を随時報告します。

第 10 号では、小中一貫・連携教育研究グループの一つである「春日小学校」と「練馬中学校」の取組を紹介します。

【研究主題】 生きる力をはぐくむ小中一貫・連携教育

「豊かな心」と「確かな学力」 ～9年間を見通した指導の一貫性を目指して～

## ◆年8回の合同研究授業を実施

春日小と練馬中では、研究2年目に入る前に研究組織を再編し、「児童生徒分科会」と「教科分科会」に大きく二分したうえで、「教科分科会」に「理数」「言語」「社会生活」「体育・芸術」の4分科会を設け、全員参加としました。

今年度は、国語、社会、理科、体育で合同研究授業を年8回実施しました。



9月に春日小4年生で行った理科の研究授業「ものの温度と体積」は、試験管に張った石鹼も膜が温めると動く様子を観察し、温度と空気の体積の関係を学ぶ授業でした【写真⑤】。練馬中の理科の先生も一緒に指導案づくりに関わり、試験管をぬらしておくとも膜が上手に張れる、など具体的なアドバイスを授業に活かしました。

講師の広島大学大学院／角屋重樹名誉教授からは、「今日の授業が、中学で『温度によって物質の体積は変わるが、質量は変わらない』ことを学ぶ、粒子の話につながる。今日の実験では『試験管に何が入っているの?』と聞いて空気に注目させたうえで、膜を張ったので『空気の入りが無い』という条件を意識させなければならない」と助言がありました。また、小中一貫教育の観点から、「小学校ではよく発言していた子が、中学校へ行くと発言しなくなる、と先生方から聞くが、発言させるためには、考える時間を与えることが必要である。中学校でも、先生が話す時間を減らし、ワークシートな

どを活用して、思考力を育ててほしい。初めは時間がかかるが、慣れてくると進むようになる。発言して間違えると恥ずかしい、という意識に対しては、学校は失敗しても許される場所、という文化を作らなければならない。」とのお話がありました。

#### ◆学校だよりで小中連携をアピール

春日小では、24年3月の学校だよりで1ページを使って「今年の小中連携」として、理科の連携授業や書初め交流、小中合同研究会の様子を写真入りで紹介しました。9月の学校だよりでは、校長先生の言葉として、わかりやすく小中一貫教育の紹介をしてくださっています。

##### よりよい小中一貫教育を目指して (春日小だより9月号より)

小中一貫教育研究協力校として2年目。今年度は、学習面での情報を共有し合い、共に育てていこうとする意識をもつことが出発点となっています。小学校から中学校へのよりよい連携を進めるために国語、社会、理科、体育の合同研究授業8回を通して研究を進めています。(中略)

小学校の教員にとっては、より深い教科内容を知ることになり、今指導している事柄が中学校でどのような指導内容となっているのか見通しをもって指導することができます。また、中学校の教員にとっても、小学校で生徒がどのような学びや体験をして来ているのかを知ることにより、生徒の学習指導に活かすことができます。まさに「9年間を見通した学びの連続性」です。練馬中学校を母体にする練馬小・高松小にも声かけをして、それぞれ研究授業・協議会に参加してもらい、一貫教育の研究を広めています。(以下、略)

#### ◆小中一貫教育の研究のなかで、教員の意識変容を見る

24年4月と9月に、両校の先生方に対して意識調査を行いました。半年間で、教科連携や小・中学校のギャップについて考える必要性については肯定的な意見が増えましたが、教師の意識や価値観に変化が出てくるには、時間がかかるようです。集計した結果の一部をご紹介します。

